

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	キッズボンド東郷				公表日	2026年 2月 2日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・物を配置しすぎず、広い空間を確保している。	・新しく利用開始した子や、成長に合わせて適時環境整備していかなければならない。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		・職員は児童2名に対して約1名の配置になっている。 ・外出等の内容によってシフトを調整し、安全に配慮している。	・どのような職員がいるかも交流を通して知っていたらけるよう、保護者会等の実施を検討する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・備品は整理整頓されており、使いやすくなっている。 ・ほとんど段差のない平面な事業所となっている。	・引き続き掲示物等の視覚支援を必要に応じて変えていき、より過ごしやすい環境を整備していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・こども達が気持ちよく遊べるよう、毎日清掃を行っている。	・引き続き古くなった備品は新調し、より過ごしやすい環境を整備していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・活動等もやる内容によって場所を変えて行い、基本は使っていない場所でも、必要に応じてこどもが落ち着けるまでの特別スペースとして使う等、柔軟に対応している。	・引き続き必要に応じて物品を揃え、わかりやすい環境を整備していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・日々のミーティング時に先日の振り返りも行い、より良い環境作りにも努めている。	・長期休暇等の場合はミーティングをする時間がなかなか取れないため、優先順位等を明確にして動きやすい環境を整備していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・送迎時、相談支援時、モニタリング時等や日々のラインや電話でご意見をお聞きし、柔軟に対応している。	・今後、保護者会等の実施を検討している。 ・引き続き送迎時等のやりとりも大事にしつつ、より良い事業所作りをしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎日ミーティングを実施しており、職員の意見交換をしている。	・引き続き話し合いの場を設け、より良い事業所へしていけるよう努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による外部評価は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・キッズボンドグループ全体で年間の研修予定もあり、zoomも用いてできるだけ全員参加している。	・活動やシフトを調整していき、より多くの職員が研修が受けられる体制を整えていく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・各事業所で内容も検討していき、スーパーバイザーも通してより良い支援プログラムの作成に努めている。 ・作成したプログラムはHPで公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・作成した計画書をスーパーバイザーも確認することで根拠と客観性も加味した計画書作成ができるようにしている。	・引き続き研修等へ参加していき、職員一人ひとりの知識や技術の向上に努めていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・管理者・正職・パート問わず様々な意見を出し合っている。	・引き続き日々のミーティングや支援を通して職員一人ひとりの知識や技術の向上に努めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・個別支援計画は職員会議やミーティング等で周知され、計画に沿った支援を行っている。	・引き続き日々のミーティングや支援を通して一人ひとりの知識や技術の向上に努めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・ASISTやVineland-IIといった標準化されたツールを使用している。また、個別支援記録を毎日記録し確認している。	・引き続き研修等へ参加していき、職員一人ひとりの知識や技術の向上に努めていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・スーパーバイザーを通してしっかりと内容も確認し、具体的な支援内容を設定している。	・引き続き研修等へ参加していき、職員一人ひとりの知識や技術の向上に努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・職員間で様々な意見を出し合っている。 ・保護者の方やこどもの意見も聞き、職員で協議もして取り入れる等もしている。	・他事業所の活動も参考にしてい、活動の幅が広がるよう努めていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・職員間で様々な意見を出し合っており、これまで行ったことのないおでかけややったことのない活動も毎月取り入れている。	・最新の学校や園で流行っているもの等にも目を向け、新しい活動を行っていくよう努めていく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・活動も選択制（避難訓練等一部は全員参加）にしており、やりたいことがあれば別途対応する等、柔軟に対応している。	・引き続き日々の支援を通して、それぞれの性格・特性の把握に努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・役割が固定にならないよう日々の業務をローテーションするよう取り組んでいる。	・ミーティングでの確認項目を細分化する等して質の向上に努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・帰りの送迎後に時間がないため、翌日のミーティングで話し合うようにしている。	・長期休暇期間等のミーティングに関してはよりよいやりかたを模索していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・日々の様子をしっかりと記録に残し、ミーティングも通して改善につなげている。	・今後も子どもと一緒に職員も様々な経験を積んでいく必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・スーパーバイザーを通してしっかりと内容も確認し、見直しもしている。	・引き続き研修等へ参加していき、理解度を深めていく必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		・様々な経験が積めるよう外出先も固定しない幅の広い活動予定を組み立てている。	・自由時間の遊び等の選択肢が増えるよう、様々な意見を取り入れていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・状況に応じて、日々の声掛けでわかりやすい選択肢を提示し、選んでもらうような支援を心がけている。	・園や学校で流行っているものにも目を向ける等、さらに遊びの選択肢が増えるよう視野を広くしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・必要に応じて児発管が参加している。	・管理者以外も機会があれば参加していくようにする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・事業所だけではわからないこと等、送迎時等に各関係機関の方と情報交換して支援に活かしている。	・送迎だけでは時間に限りがあるため、別の機会も設けられるようにしていかなければならない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・適宜電話等で連絡調整している。	・よりミスがなくなるよう情報共有に努める。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・必要に応じて連携をとり、本人への理解を深めている。	・確認したい項目をミーティング時等に明確にできるよう努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			・当事業所で卒業生がまだいない。 ・事前に研修等で知識を深める必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			・同会社外との連携は現状ないため、まずは地域の児童発達支援センター等の情報を集めていく必要がある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・様々なお出かけを通して一般の子と関わる機会もある。	・児童クラブや児童館へのおでかけはまだやっていないため、今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			・まだできていないため、今後検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・日々の様子を送迎時に伝えていき、わからないこと等あれば電話等で情報共有していくよう心がけている。	・今後、保護者会等を実施していき、お互いの理解を深めていけるようにする。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・モニタリング等でご質問等あれば意見を伝えるよう心がけている。	・今後、保護者会等を実施していき、お互いの理解を深めていけるようにする。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に口頭で説明している。また、いつでも閲覧できるように入口にファイリングしている。	・研修等へ参加して知識を深めていき、対応できる職員を増やしていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・こどものニーズを最優先に考え、家族の意向も反映させながら計画書を作成している。	・こどものニーズと保護者の方のニーズも把握したうえで、事業所でできることをよく検討していき、より良い支援が提供できるよう努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・必要に応じて質問に答えたり、わかりやすい内容の計画を立て、送迎時などに支援内容の説明を行い同意を得ている。	・保護者がより理解しやすい提示方法や振り返りの機会を工夫し、同意形成をより丁寧に進めていきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・必要に応じて相談支援の場を設け、ラインや電話での相談は随時行っている。	・悩み等に対する様々な考えをお伝えできるよう、引き続き研修等に参加して知識を深めていく必要がある。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	・保護者の方やきょうだいも参加可能な夏祭りを実施した。	・保護者会やきょうだい同士で交流する機会がまだ少ないため、今後検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	・お互いの相違がないよう電話等で内容をしっかりと把握し、適切に対応するよう心がけている。	・保護者会等を実施し、お互いの理解を深めていけるようにする。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	・毎月、キッズポンド通信と活動予定表をご家庭にお渡ししている。	・活動内容をわかりやすくお伝えする工夫を検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	・書類はすべて鍵付きの書庫で管理している。 ・PC内のデータは抜き出しできないように設定している。	・職員間での確認体制をさらに見直し、より安全性の高い管理体制を整えていきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・絵カードやタブレットを使用して情報伝達をしている。	・引き続き研修等へ参加していき、職員一人ひとりの知識や技術の向上に努めていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・地域の方の畑を借りて農業体験を行う等している。	・イベントの機会が増え、規模が広がるよう内容等検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・マニュアルを策定し本部主導で、訓練や研修を行っている。	・保護者の方へ周知する工夫が必要なため、今後検討していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	・避難訓練は毎月行っている。 ・BCPは策定済みで、必要な研修や訓練も行っている。	・引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	・適宜服薬状況等、保護者の方にも確認し、情報共有している。	・優先順位や対応手順等、より見やすいマニュアルを作る等して体制を整備していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・現状は強いアレルギーのある利用者はいないが、アレルギー一覧表を掲示し、活動（ランチ作り等）でも配慮して行っている。	・引き続き研修等で知識を深めていく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・安全計画は作成済み。 ・必要な研修や訓練も行っている。	・引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	・キッズポンド通信や日々の様子を撮った写真を不定期だが保護者へお渡しし、様子がわかるように配慮している。	・保護者がより理解しやすい形で伝わるよう、周知方法の工夫を今後検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・ヒヤリハット・事故等あれば迅速に対応策を考え、実施するよう心がけている。	・引き続き研修等で知識を深め、より安心して過ごせる環境を整備していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・早期発見チェックリストを作成し、毎月全職員で確認するようにしている。	・引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	・身体拘束適正化委員会を設置し、必要な研修や訓練を行い、需要事項説明書に明記している。	・引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。	